

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 108

今月のテーマ 子どもとお金を考える

先月号ではお金の循環という点を考察してきた。単純に言うとお金が循環しなくなってしまうと、経済は破たんする。かつて予想をはるかに超えた急激な景気後退が、いわゆる「バブル崩壊」を招きお金の循環が著しく悪化してしまった。潤沢だったお金の循環が鈍化したことで多重債務などによる自己破産という結果を招くことにもなり、その後も「サブプライムローン」や「リーマン・ショック」に見舞われ、多重債務による問題は続くこととなってしまった。

金融経済の発展による金融商品の登場(リボ払い、キャッシングなど)は、お金を借りることを容易にし、奇しくも多重債務者を増やす一因になったことは否めない。結果として、貸金業法に「総量規制」なるものが登場し、「貸金業者からの借り入れの総額は年収の1/3まで」という事態になった。しかし、この規制が根本解決になるかという、はなはだ疑問だ…。何故なら「総量規制」には例外があり、銀行による貸し付けは対象外となっているからだ。フリーローンと称するこの借り入れの特徴は次の通りだ。

①来店不要 ②即日融資 ③使い道は自由 ④契約書への印鑑も不要 ⑤アルバイト・主婦の方もOK
 なんだか、どこかで聞いたような…!?金利はというと、幅こそあるものの十数パーセントになることも珍しくない。仮に15%の金利となった場合、今どきの地元地方銀行のスーパー定期預金金利(0.01%)と比較すると、実に1500倍に及ぶ。一概に否定するものでもないが、出来るならば避けたいものだ…。

悪循環に陥らないためには、どうするべきか?社会の体制などを歎いていてもしょうがないし、せめてそうならないようにするためにも、知識や意識を育て、日ごろの何気ない行動から変えていく必要がある。それは、大人はもとより、子どもに対するしつけや教育からも変えていかなければならない。先月4月に中3女子が、友人宅から現金1,000万円を盗み、同級生に配ったという事件もあった。これが異常な事件として傍観している訳にはいかないくらいに、事態は深刻化しているのかもしれない。親子で真剣に考える良い機会になればと願います。



時代背景とお金

「お金は大切なもの。当たり前前のことではあるが時代によって、その認識は違っているような気がしてならない。社会背景が変われば当然とも言えるだろうが、「お金を大切にできる根本的な経済観念」などは変わってはならないし、守り伝えなければならぬ。

一頃は、特にそれを意識しなくても日常生活の中である程度は育むことが出来ていたような気がする。生活の中においても、子どものするお手伝いや役割がそれとなくあつたし、お金を得ることは働くことの延長線上にあることを社会全体が教えてくれていると思う。自身を振り返ってみても、幼いころに親から何かを教えられたといった記憶はあまりないし、どちらかというところ「ほったらかし」の状態だったようにも思える。しかし、家庭内での役割が決まっていたし、決して裕福とは言えない環境にあって、お金のことについては常に敏感だった気がする。要するに、おかれた家庭と社会の環境が一定の教育の役割を果たしていたのだらう。

時代が良い悪いという話ではなく、物理的に豊かになった今にあつては、それに合った子育てや教育を意識しなければならぬかもしれない。社会は経済活動そのものと言つても過言ではないし、それに対する意識や知識は社会人として必須のものと言え、現代社会の「知識や意識」に対する教育は、家庭内にあつても学校教育にあつても不十分と言わざるを得ない。であれば、子どもの将来的な自律と自立を図るためにも、家庭も学校教育も地域社会も、その果たすべき責任は大きい。

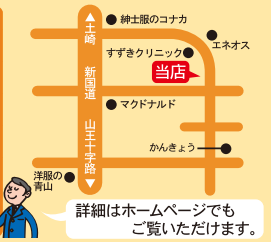


齋藤 廣勝 (さいとう ひろかつ)
 株式会社トータルライフサポート代表取締役
 ・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー
 ・1級ファイナンシャルプランニング技能士
 ・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
 ・住宅ローンアドバイザー
 ・金融広報アドバイザー

保険と暮らしの相談センター

“生命保険でこんなお悩みはございませんか!?”
 ◆ 保険の見直しを検討している
 ◆ 加入している保険が本当に良いのかわからない
 ◆ 更新時期が近く、保険料がアップしてしまう
 ◆ 将来の子供の教育費が心配
相談は無料!!
 納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。
 株式会社 トータルライフサポート
 〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
 ● 営業時間 / 9:30~18:30 (土・日・祝日は9:30~17:00)
 ● 定休日 / 水曜日
TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp



● 家庭の責任

親世代・子育て世代の中でも、お金に対する苦労は様々だろうが、せめて自分の子どもにだけはさせたくないと思っている方も少なくはないはずだ。お金は無ければ困るし、沢山あったほうが良いと考えるのも常だ。この親にしたって子どもの幸せを願うのは当たり前だが、イコールお金ではないはずだ。お金の執着しすぎると、どこまで行っても際限がない。物欲はいつの間にか必要なものから欲しいものになり、幸福感は今あることの幸せから、周りとの対比による優越感に変わっていく。どこかの航空会社の傍若無人な〇〇姫は、子どもの頃、自分だけが外国の高級車に乗ることに幸福を感じていたそう。その当たり前な日常が、いつの間にか勘違いを生み、思い通りにならないことに苛立ち、かんしゃくを起こし、あんな事件に至ったのかもしれない。なんと不幸なことか…。お金を沢山持つこと、人格は別物であるはずなのに、お金は満足感と幸福感を同時に奪ってしまった。こんな言い方をすると、大げさでこじつけのように思われるかもしれないが、一見、豊かになつたように見える日本の社会においても、起こりえることのような気がしてならない。今回は、子どもたちが、将来の巣立ちに向けて持ち合わせていなければならない大事なことを、家庭内でのやるべきことを改めて一緒に考えたい。

● 社会の責任

家庭内での教育はもちろんのこと、子どもが社会人として巣立つ前に必然的に係わることへの知識や情報、その適応能力を持たなければならぬはずだが、その実態はどうだろうか…。

自動車を運転するには、道路交通法の知識や運転の実技を習得し、試験に合格しなければならぬ。もし、免許を持たず道路標識すら知らない人間が、いきなり街の中で車を運転したらどうということになるだろうか…。いつ事故が起きてもおかしくない。新社会人としての免許証なるものはないが、社会人として身に着けておきたい最低限の知識は少なくない。ローンやクレジットなどの金融商品の知識、健康保険や厚生年金の知識、自動車保険や生命保険の知識などは、最低限に身に付けておきたいものだ。契約トラブルや金銭トラブル、多重債務や詐欺

に遭わないために、またリスク管理や計画的な生活設計を立てる上でも極めて重要な事柄なのだが、無免許運転に近い新社会人がなんと多いことか…。

● 金融(金銭)教育の実態

金銭教育として取組むべき事柄は、小・中・高とも学習指導要領の中にも盛り込まれているが、教育現場における進捗状況に関しては、検討すべき課題もあるようだ。秋田県内にあつては、秋田県金融広報委員会が生徒・児童のそれぞれの発達段階に応じて、現在および将来の生活を支える金融・経済に関する正しい知識の習得またはお金の物に対する健全な価値観の養成を図るため、具体的な教育を実践し、その効果的な方法を研究することを目的に、金融(金銭)教育研究校を募集・委嘱し、支援活動を進めている。また、一般向けにも様々なセミナーの開催や地域社会、グループ・サークル、PTAなどに対しても無料で講師派遣を行っているが、その普及はまだ十分とは言えない。関係する諸団体の方々には是非とも活用されることをお勧めしたいが…。

数年前、金融広報委員会を經由し、ある高等学校からの金融(金銭)教育の一環としての興味深い講師依頼を受けたことがあつたので紹介してみよう。担当の教諭が、就職予定の生徒が社会に出る前に、是非とも知っておいてほしいとの想いで企画を行なつたもので、私の担当した主なテーマは次の3つであつた。

- ① 給与明細の見方・労働契約とは
- ② 暮らしに関する税金・年金・保険
- ③ 生命保険・損害保険

その開催主旨と依頼内容に感服し、私自身も力の入った形でお引き受けしたケースであつた。今、この記事をご覧いただいている方の中に、どれ程の方がこのような授業を受けた経験があるだろうか…!? たぶん皆無に近いのではと思われるが、先生自身も給与明細の見方(健康保険料・厚生年金保険料・税金の計算根拠)はもとより、何れも過去に教わつたことが無く、今回初めて知つたということだつた。給与明細で毎月引かれているものが、何者で何の役割を果たすものかも知られずに払い続けているということだ。このように、社会生活に不可欠な知識や情報を、系統的かつ連続性をもつた形で伝えられていないということは、将来の生活設計において、重大な瑕疵があると言えるのかもしれない。学校・家庭・地域の社会全体での学習を、改めて考えてみる

必要があるが、個々人のレベルではなかなか難しい。秋田県金融広報委員会では、様々なセミナーの開催や講師派遣、そして金融教育研究校の活動支援を無料で行っている。学校、地域社会、グループ・サークル、PTAなどなど、関係する方々には是非とも活用してほしい。

秋田県金融広報委員会 <http://www3.boj.or.jp/akta/kin/kinkou.html>

● 金融リテラシー

皆さんは「金融リテラシー」なる言葉を聞いたことがあるだろうか? 覚えがない方も多いと思われるが、2013年に金融庁「金融経済教育研究会」において、最低限身に付けるべきこととして「金融リテラシー」を4分野・15項目に整理し報告されたものである。難しそうに感じられるかもしれないが、実にごもつともな事柄なのである。その意味定義づけは前段の高校教諭の想いも正にこのことだ。この度の記事は、面倒くさいことを言っているように思われるかもしれないが、様々な金融トラブルなどに巻き込まれないためにも、最低限の知識や情報が、今更ながら求められているということだ。一人のファイナンシャルプランナーとして、伝えるべき責任を感じながらお伝えしようと思う。我が子を守るために、いや自らを守るためにも、面倒がらずに今少のお付き合いをお願いしたい。

● 来月号は

子どもを守るための最低限の知識・情報を、もう少し具体的に解説してみることにする。

